

2023年度外部研究評価委員会における主要意見及び国環研の考え方

エコチル調査に関する事業

委員会の主要意見	主要意見に対する国環研の考え方
<p>現状についての評価・質問など</p> <p>環境省の基本計画に基づいた調査として予定通りに調査を実施するとともに、結果の解析と発信を行っており重要な取り組みと考えられる。国民の健康に関する情報として、大変有用なデータであり、継続した調査結果として評価したい。</p> <p>一般市民への情報展開にも力を入れていただきたい。また、他機関と連携したりテラシー教育の必要性についても議論できると良いのではないか。</p> <p>長年に蓄積から、利活用、とりわけ政策展開にはあまり踏み込まれておらず、今後の課題と感じた。</p> <p>大がかりなプロジェクトではあるが、予算も多く使用している。海外も含めた情報提供のプラットフォームに関しての整備の責務があると思われる。</p>	<p>激励有難うございます。今後も尽力してまいります。</p> <p>今後は参加者が中高生となることから、中高生に向けた情報展開を中心に工夫してまいります。</p> <p>エコチル調査の実施部門としては、まずはエビデンスの創出に注力しているところであり、政策展開への踏み込みまでは対応しておりませんが、PFAS や農薬の健康影響など疫学的エビデンスが求められているところであり、これらの成果発表に注力し、政策立案に貢献したいと考えています。</p> <p>エコチル調査から得られたデータについては個人情報の保護や参加者との同意状況等の観点等から十分な対応を取った上で、エコチル調査関係者以外（国内外の研究者）に対する共有を行う準備を進めてまいります。</p>
<p>今後への期待など</p> <p>分析対象物質についてはある程度毒性が知られている物質が多い印象を受けるが、もし試料や調査の性格上可能であれば、より幅広い物質についても分析していただけるとよいように思われる。</p> <p>環境と子供の健康に関する出生コホート国際作業グループ（ECHIG）や、国際小児がんコホートコンソーシアム（I4C）へ参加して、国際共同研究を推進されることを期待する。</p>	<p>今後の分析対象物質については、曝露評価専門委員会等での議論や環境省からの意見を踏まえ、検討してまいります。</p> <p>エコチル調査の成果について国際的にアピールを進めていくとともに、国際的な連携の方針については環境省と協議しながら引き続き進めてまいります。</p>